

### 【はじめに】

私は、奈良県の多文化共生に取り組んでいる。多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築くことだ。(総務省, 2006年)現代の世界では情報や文化が行き来し、影響し合って成り立っており、将来、国籍や民族などの異なる人々と接する機会が必然的に増えてくるだろう。このグローバル社会の中で生きていくために、世界のさまざまな国や人について理解し、問題や課題に目を向ける必要があると考えたから、この「グローバルが生み出す力」のゼミを選んだ。また、このテーマを探究しようと思ったきっかけは、高校2年時にゼミの授業で、イスラムについて考えたり、イスラムの生活と宗教の関わりについて学んだりしたことだ。この授業を通して、私はテロなどでイスラム教徒への勝手な偏見を持っていることに気づいた。そのため、イスラムに限らず、海外の人と接するときは異質な部分だけを捉えるのではなく、共感できる場所を見つけ、相手の立場にたって共存の方法を考えたいと思った。そしてまずは、自分達が住む奈良から変えて行きたいと思ったため、これをテーマにした。

### 【序論】

このテーマに対して、奈良県の多文化共生を実現させるためにはどうすればよいかという問いを立てた。日本に暮らす外国人には、最低限として食事が必要だ。世界人口の4人に1人がイスラム教徒(東京都産業労働局, 2021年)で、キリスト教徒に次ぐ一大勢力となった今、日本の飲食店に行っても宗教の問題で食べられるメニューがなく、安心して食事のできるレストランを探すのに苦労をするムスリムの方が少なからずいるだろう。スタディーツアーで別府市に行ったとき、ハラルマップという、ムスリムの方に向けたハラルフードが取り扱われている飲食店が記載されたマップがあるのを知った。ハラルフードとは、イスラムの教えで食べてよいとされる食べ物のことだ。奈良県にもこのようなものがあるのかを調べたところ、実際に手に取ってすぐに確認できるようなマップや情報がなかった。このようなマップがあると、ムスリムの方はより安心して奈良を満喫することができるだろう。そこで、奈良県のムスリムの方に向けた、ハラルフードを取り扱っている飲食店や礼拝施設を記載したマップを作ることにした。

### 【本論】

私たちが作ったハラルマップは三つ折りになっていて、開くと近鉄・JR奈良駅周辺の地図が書かれている。この地図は、著作権の問題でGoogleマップなどを用いることができなかったため、手書きで作成した。赤色、黄色、緑色の3つの色で番号が振り分けられていて、赤色はハラルフードが扱われているお店、黄色は近鉄・JR奈良駅周辺の有名な観光地、緑色は礼拝スペースがある施設を指している。赤色で示したハラルフードが扱われているお店は、ハラルフードが取り扱われている飲食店が記載されたサイト(ハラルグルメジャパン)で見つけたお店に許可を得て記載をしている。自分達でアポイントメントを取っていく中で、お店の方自身が「ハラル」を知らず、ハラルフードを取り扱っている自覚がなかったり、すでに閉店しているお店があったりと、そのサイトの情報が古いことが分かったので、私たちのパンフレットで新しい情報を得ることができる。裏表紙には、私たちがこのマップを作った経緯や、マップへの思いを記載している。お店や施設などの情報や、マップへの思いは英語で書かれているが、これから、中国語や韓国語など多言語対応をしたマップも作ろうと考えている。

## Restaurants Serving Halal or Muslim-Friendly Menu

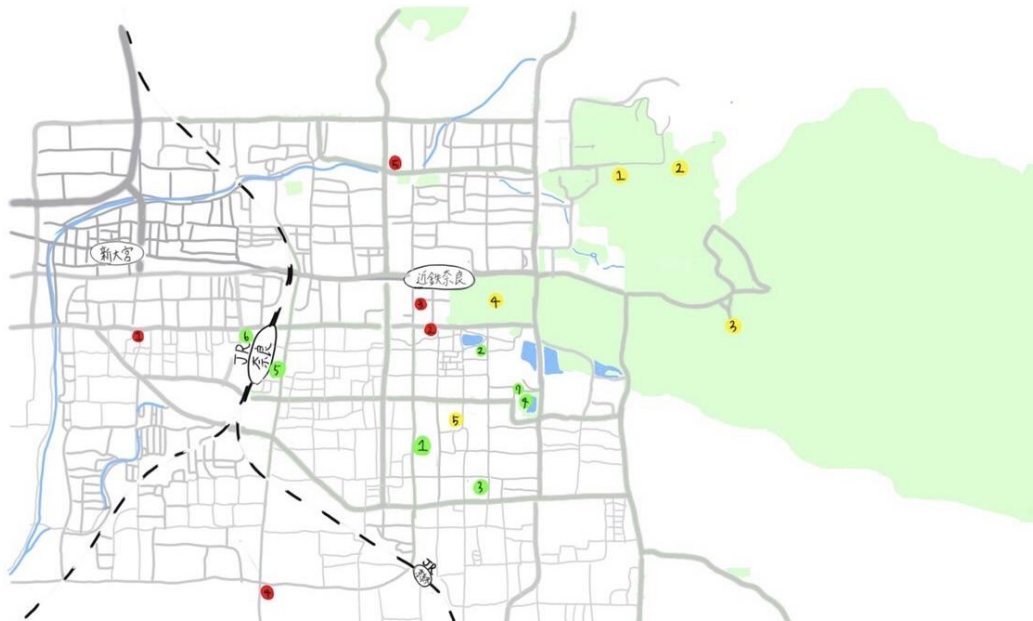
- ① PY Halal Kitchen  
36-1 Hashimoto-cho Nara-shi / TEL : 050-1231-1442 
- ② Sakina Halal Food / さきなハラルフード  
2-chome 1201-6 Minami kyobate-cho Nara-shi / TEL : 090-9897-2031 
- ③ SAHHA  
1071-2 Horen-cho Nara-shi / TEL : 070-8428-0552 

## Sightseeing

- ① Todaiji Temple / 東大寺  
406-1 Zoshi-cho Nara-shi 
- ② Nigatsudo / 二月堂  
406-1 Zoshi-cho Nara-shi 
- ③ Kasuga Taisha Shrine / 春日大社  
160 Kasugano-cho Nara-shi 
- ④ Kofukuji Temple / 興福寺  
48 Noborioji-cho Nara-shi 
- ⑤ Gangoji Temple / 元興寺  
11 Chuin-cho Nara-shi 

## Prayer space

- ① Naramachi Jinniya / ならまちじんにいや  
28-34 Minami jodo-cho Nara-shi 
- ② Sarusawa In / 猿沢イン  
3 Ikeno-cho Nara-shi 
- ③ Naraigoto eena!House / 習い事エエな！ハウス  
18 Kawanokami tsukinuke-cho Nara-shi 
- ④ KAI  
12-1 Wakido-cho Nara-shi 
- ⑤ Nara City Tourist Information Center / 奈良市総合観光案内所  
1-1082 Sanjo Hommachi Nara-shi 
- ⑥ JR Nara Station / JR奈良駅  
1 Sanjo Hommachi Nara-shi 
- ⑦ Nara Hotel / 奈良ホテル  
1096 Takabatake-cho Nara-shi 



作成したマップを、奈良県猿沢イン外国人観光客交流館の方に見ていただき、改善点などのアドバイスをいただいた。猿沢インは猿沢池のすぐ横にある、ホテル兼文化交流センターだ。そこは奈良県が運営している、異文化交流を含めた奈良県の観光を促進する複合施設である。マップには写真を使用しておらず、住所や名前しか書かれていないため、マップを使用する人はどのようなお店や外観なのか自ら調べなければならない。そこで、代表的な写真やQRコードを載せることにした。写真の掲載をすることでマップの情報が見やすくなり、一つ一つ場所を検索する手間を防ぐことができる。QRコードはお店のホームページへ飛べるようにしたり、Googleマップを開くようにしたりし、自分の今いる位置からの距離が分かるようにしたりするなどのデジタル要素を入れることで、より利便性が上がる。有効的に活用してもらうために、一番多く利用されている観光地やスポットを大きく表示するなど、細かい情報よりもより具体的な情報を提供することも意識した。また、外国人の方にとって読みやすくなるように、ローマ字ではなくヘボン式を使用した。例えば、NAMBA(難波)のように、B、M、Pの前の「ん」は、NではなくMで表記する。また、HATCHO(八丁)のように、チ(CHI)、チャ(CHA)、チュ(CHU)、チョ(CHO)音の前には「T」を表記する。このように、ヘボン式とは、ローマ字だと読みにくい英語圏の方たちのためにつくられたものだ。完成したマップは、たくさんの方や外国人観光客の方、また、よりハラルのことを知ってもらいたいので、たくさんの方の目にも止まらせない。そのために、ご協力いただいたお店や駅に置きたいと考えている。また、京都や大阪でも接触する機会を増やしていきたい。

猿沢インの方に、ムスリムの現状や問題点を教えていただいた。外国人観光客交流館には、プレイヤーールームが設備されている。プレイヤーールームとは、礼拝する場所のことだ。宗教を問わず利用できるが、主として1日5回の礼拝が義務付けられているイスラム教を想定して設置されている。プレイヤーールームを使う人は、インドネシアの方やマレーシアの方が多いそうだ。そのような信仰に厳格な方に、ムスリムフレンドリーレストランを紹介できるお店が少ないそうだ。また、PYハラルキッチンの方にも、ムスリムやハラルフードについて教えていただいた。PYハラルキッチンは、奈良県で唯一ハラルフードを提供しているお店だ。ここでは、ハラルフードは、自分達が思っていた以上に厳格なものだということを知ることができた。ハラルフードを扱っていることを公表するにはハラル認証が必要だ。ハラル認証とは、対象となる商品・サービスがイスラム法に則って生産・提供されたものであることをハラル認証機関が監査し、一定の基準を満たしていることを認めることだ。このハラル認証は、ハラルフード以外を扱っているお店には与えられない。そのため、自分達で勝手に判断してお店の名前を掲載していたら、国際問題になりかねないことが分かった。これも踏まえて、よりムスリムの方が使いやすく安全だと思えるようなマップに改善した。

### 【結論】

このマップから得られる効果は、Wi-Fiがない環境でも、紙媒体のマップを持って観光でき、デジタルを扱うことが苦手な方にも使いこなせることだ。また、パンフレットを記念品やお土産として持ち帰ることができるため、思い出にもなる。地域のハラルレストランを発信し、奈良にいるムスリムの方のツールとして活用してもらうことで、宗教や文化による壁をなくし、より多くの人に奈良県を好きになってもらうことで、奈良県の多文化共生は実現できると考える。猿沢インの方やPYハラルキッチンの方のお話を聞いて、どれだけ時間と労力をかけてハラルマップを作っても、私たち作る側と使う人側の視点がずれていると、結局何の役にも立たずに無駄になってしまうということが分かったので、これからの課題として、奈良はどのようにムスリムに対応しているのかや、どのようにしたらこのマップがよりたくさんの方の目に止まるのかを改めて考えていきたい。また、このマップは情報が新しく、自分達で実際に正しい情報かどうか確かめられているので、それに加え、常に新しい情報をアップデートしていく方法も考えていきたい。

### 【おわりに】

ハラルマップを作る前は、あまりイスラム教のことについて知らず、自分にはあまり関係のないものだと考えていた。また、ハラルフードもただ豚肉やアルコールを飲んではいけないだけだととらえていたので、ムスリムの方や日本にくる外国人の方の苦勞をあまり理解していなかった。しかし、このマップ作りによってさまざまな現状を知ること、ムスリムはとても身近な存在だということを実感した。今日の日本はさまざまな国から外国人の方がやってくる。それにも関わらず、日本の宗教への配慮がまだまだ足りていないということを学んだ。そのため、ムスリムなどの宗教に限らず、さまざまな背景をもつ人々を理解し、受け入れていきたい。そして、これからもハラルなどの宗教に関することや、さまざまな国の文化を知り、周りへ発信する活動を続けていきたい。そうすることによって、多文化共生を実現することができると思う。

〈参考文献リスト〉

総務省(2006年)「多文化共生の推進に関する研究会報告書 ～地域における多文化共生の推進に向けて～」